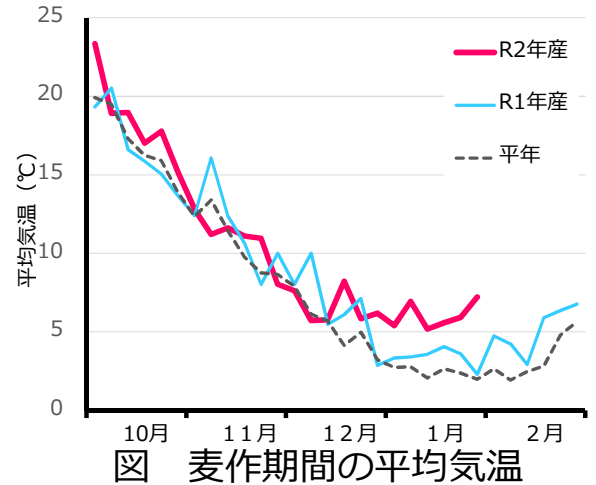


記録的な暖冬で生育は早まっています！ 生育に応じた管理で収量確保！

1. 気象および麦の生育状況

昨年以上の記録的な暖冬となり、麦の生育は昨年並またはそれ以上に早くなっています。ただし、播種時期により生育の差が大きく、ほ場の生育に応じた管理が必要です。



2. 収量確保に向けた管理

(1) 施肥(大麦・小麦共通)

全量基肥施用の場合

茎数が十分確保できている(茎数 400 本/m²以上)ほ場では、追肥の必要はありません。

ただし、生育過多で葉色の低下が著しい場合や、分けつ不足(茎数 400 本/m²未満)の場合は、2 月中～下旬に窒素成分で 1.5～2kg/10a 程度追肥してください。

分施体系の場合

穂肥の施用は例年より時期を早め、2 月中～下旬に窒素成分で 3～4kg/10a 程度実施しましょう。

茎数 400 本/m²以上の
大麦ほ場(例)



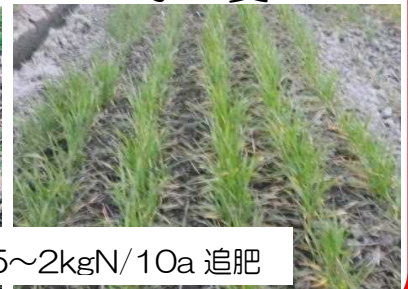
追肥不要

茎数 400 本/m²未満の目安

大麦



小麦



2 月中～下旬に 1.5～2kgN/10a 追肥

(2) 排水対策

排水不良による湿害は、収量・品質の低下を招きます。明渠に滞水している場合は溝さらえ等を行い、速やかに排水しましょう。